



愛知県

なごや若者サポートステーション

オンラインを活用したサポステ間をつないだ職業人講話の実施

サポステ基本情報

運営団体名 NPO法人ICDS
スタッフ数 常勤5人 非常勤6人

取り組みのポイント

① 取り組みのねらい・ポイント

サポートステーションの支援プログラムの中で、企業・事業所にご協力いただくものとして、職場体験や職業人講話がある。なごや若者サポートステーション(以下なごサポ)においては、就労経験が少ない若い利用者にとっては社会を知る機会として重要なプログラムとなっており、特に職業人講話は、就職活動の第一歩として職業理解を深めるだけでなく、働いている人を身近に感じ、講師の職業人生を職業観・勤労観の涵養に大変有効である。

「働く」、「職場」というものが未知であるために怖いと感じ、一歩が踏み出せない利用者も少なくはなく、話を聞く機会を1回でも多く実施したいが、一サポステの資源では定期的に実施するためにご協力いただける事業所の数や、業種・職種を満遍なく網羅するには限界があった。そこで、他のサポステと共同することで、より幅広い業種の方にご登壇いただき、例年以上の回数を開催し利用者へ学びを得る機会を提供した。

オンラインでのセミナーはこれまで、参加という形で他のサポステと共同で実施しており、その経験を発信側として生かすことができた。

② 取り組みの具体的な内容・方法・効果

背景

新型コロナウイルスの蔓延に伴い、なごサポの職場体験等の協力企業の多くが、業務の縮小により体験や見学の受け入れの中断を余儀なくされ、利用者の職業の世界を知る機会が減少した。その中で、職業人講話はなごサポの利用者と企業をつなぐ窓口として重要度は増している。

しかし、実施においてはソーシャルディスタンスを保つために、定員をこれまでの半分にし、感染者が増えるにつれ外出を自粛し、参加者の確保も大きな課題になった。緊急事態宣言の発令後は一時対面での支援を中止したため、どのように実施するかは大きな課題であった。

また、当法人では他に2カ所のサポステ(常設サテライトを含む3カ所)と自治体独自の就労支援窓口を運営しており、特に小規模のサポステではご協力いただける事業所があっても、会場も手狭で多くの集客が見込めないなか、なかなか実施できないジレンマがあり、オンラインでの職業人講話はこれらの課題の解消になると期待した。

実施方法

今年度、新たに職業人講話を複数のサポステ、支援機関をつないで行うにあたっては、新型コロナウイルスの蔓延に伴い、サポートステーションではオンライン支援が当然となっていく中で、必要な機材設備が整いスタッフと利用者共にオンラインに慣れたことで実施のハードルが下がった。また、企業側もオンラインが当たり前になったことも大きい。

第一段階として、なごサポでは緊急事態宣言中は、前述の通り対面での相談、グループワークは中止したため、徐々にオンライン開催に切り替えたが、当初は利用者の準備ができていないこともあり、まずは外部との調整の必要がないこれまで実施してきたセミナーのうち、オンラインでも実施可能なものを選択し、なごサポの利用者のみに先行いオンラインでの開催に徐々に慣れてもらった。

第二段階は、スタッフがなごサポ外からオンラインでセミナーを開催した。担当するスタッフをテレワークとし自宅からセミナーを開催し、運営上の問題点などを確認した。参加者はなごサポに来所して参加、自宅にて参加と複数のパターン

で行った。この時点で、開催上の問題点はクリアできた。

そのうえで、他のサポステ等と最大5カ所をつないで実施した。

効果

- ①他のセミナーでも言えることだが、オンラインにすることによって、「参加しやすくなった」という意見が「参加しづらくなった」を上回っており、実際に初めてのセミナー参加がオンラインという方も多い。
- ②職業人講話のバリエーションが増えた。大手企業とは違う地域に根差した企業や、独創的な経営者など、なごサポでは連携が取れていないような魅力的な企業・職業人の話を聞くことができた。

③ 実施上の留意点

①個人情報等…

オンラインで行うために、毎回ZoomのURLを参加者に送るなど、事前のやり取りが増えるため、誤送信や送信漏れなどの注意が必要となる。また、内容によっては参加者の情報の一部を共有することもあり、参加申し込みの際に取り扱いについて改めて周知しトラブルを予防する。

②通信環境…

毎回、映像・音声のトラブルがあり、開始に影響のあった回もある。事前に接続テストを行えない場合もあるため、それぞれの通信環境の確認は重要である。また、参加者が利用しているサポステ等に集まり、拠点をつないで行う場合には、スピーカーやマイク等の機材の準備が重要で、特にマイクがパソコンに内蔵されているものでは、会場全体の声を拾うことが難しいため、無指向性のマイクを用意して対応した。

取り組みの成果と今後の課題

新型コロナウイルス禍での行動自粛の中にあって、これまでと同様の参加者数となり、ご登壇いただいた企業の方にも満足していただくことができた。

また、複数のサポステをつないで1つのイベントを行えたことで、今後様々なプログラムへ発展していくことができる。

普段は他のサポステの利用者と一緒に活動することがないため、他の地域でも自分たちと同じように就労に向けて取り組んでいる若者がいるということが励みになり、またサポステにそれぞれ地域的な特徴があるのと同様、サポステを利用する若者も生活環境などの地域特性からか意見や考え方に違いがみられた。そのためか、同じサポステから参加した同士のつながりが強くなったように感じられた。参加者の視点の違いは、そのままそれぞれのサポの支援の方針ともリンクしていると感じ、スタッフの取り組み方針を見直す機会ともなった。

今年度は試行段階にあり、実施に向けては何回か打ち合わせを行っているため、単独で開催するよりも準備に時間がかかっている。特に日程については、それぞれのスケジュールもあり、調整が難航し依頼した企業の方にも何度か予定を変更していただいた回もある。今後は可能な限り年間スケジュールに組み込み、それぞれの担当回は余裕を持った準備が行えるようにしたい。

オンラインでの開催は、単にどこに住んでいても参加できるということだけではなく、地方のサポステではなかなか話を聞くことができない仕事や働き方を知ることで視野を広げる機会となる。しかし、なごサポ利用者の中には、PC・スマートフォン・タブレットを所持しておらず、オンラインでは参加できないという方もおり、その際にはなごサポに来てもらいPCを貸し出すといった対応が必要になった。一サポステだけで解決できるものではないが、貸し出し用のタブレット等を整備可能な限り行いたい。

他のサポステと連携して実施することで、スタッフの負担も減り、利用者に対して自サポステで所有する資源以上の支援の提供を行うことができた。